聴覚障がい教育支援情報紙
みみネット
No323　令和４年９月９日
発行：大阪府立中央聴覚支援学校
聴覚支援センター

-Index-

映画「ヒゲの校長」インタビュー＜第４弾＞
高校での学びについて ―本校卒業生より―
チャレンジ！発音指導 ⑫

映画「ヒゲの校長」インタビュー＜第４弾＞

みみネット No320 及び No321 では福島彦次郎先生（本校最初の聴覚障がい教員）に関するインタビュー記事を掲載しました。今号では、福島先生の御令孫にあたる、福島成之さんへのインタビュー記事を掲載します。

初めまして、福島彦次郎の孫で福島董（ただす）の次男にあたります、福島成之（のりゆき）と申します。1963 年生まれで来年還暦を迎える年となりました。この度ご縁を戴き 2021 年１月に大阪府立中央聴覚支援学校にお邪魔する機会を得、更に今年４月のヒゲの校長の映画撮影にもエキストラとして参加させて戴きました。

今回、みみネットという聴覚障害に携わる皆様に向けてお話できる立場ではありませんが、祖父や父（祖母や母もなんですが）がお世話になった旧大阪市立聾学校の思い出等を含めてお話できればと思います。

福島先生の御令孫から見た、福島彦次郎先生の人柄や魅力について、教えていただけますか？

私が生まれたときには既に祖父は他界しておりましたので、母から「祖父は教育者として功績があったので大阪城公園にある教育塔に名前が刻まれている」という事だけ聞き、記憶にある程度でした。残念ながら家の中で祖父が話題に出ることはほとんど無く、人柄については私自身もどんな人であったかを知りたいとかねてから思っておりましたが、聾学校で教鞭をとっていた先生というイメージのみでした。

また、祖父が教鞭をとっていた時代は、今と違って障がい者への差別は思いのほか厳しかったはずですし、自らも聴覚障がいを持ちながら同じ境遇の子供たちのために奮闘した人だったんだろうとボヤっとした人物像を思い描いていました。

映画「ヒゲの校長」の撮影現場は、どのような雰囲気でしたか？

撮影現場は、演劇発表会の場面で妻とともに観客エキストラで参加させて戴きました。事前に支援学校の本間先生から祖父彦次郎役の前田先生に連絡をして戴き、谷監督と調整戴き参加することが出来ました。

写真①（中央が福島先生）

祖父が演じていた車座の場面（写真①）が残っており、当時の舞台が忠実に再現されていることに感激したと同時に、観客席に座ると本当の演劇発表会に居るような感覚になるほどでした。

何度も同じシーンの撮影がありましたが、高橋校長役の尾中氏、演者の皆さん、エキストラ、スタッフの皆さんが一体となって映画を作り上げている雰囲気が印象的でした。

本校に足を運んでくださった際には、福島先生に関する資料をご覧になられたと伺っております。

見せて戴いた資料すべてが我が家の記録のようでした。家に無かった写真や記録が盛り沢山で、祖父の卒業証書や俸給辞令が綺麗に整理保管されていた事に驚きました。印象に残った資料は、見せて頂いた資料すべてと言っても過言ではありません。

特に祖父が手掛けた「ヴェニスの商人」の脚本（写真②）などの自筆文書、学生時代や若いころの写真などです。もし我が家にあれば保管はおろか、無くなっていたことだろうと思います。祖父の遺した物がお役に立つのか分かりませんが、引き続き保管いただければ有難い限りです。

写真②（ヴェニスの商人の脚本）

現在の本校の様子をご覧になられて、感じられたことなどありましたら、教えていただけますか？

私が父と行っていたのは約 50 年前（前校舎時代）、今は綺麗な建物になっていますが、どことなく当時の雰囲気が残っていて、現校舎になってから初めてお邪魔したにも関わらず懐かしさを感じました。

写真③（2021 年 1 月 奥様と共に来校）

50 年前にも玄関を入ったところに銅像があったのですが、その人物のことは分かっておらず、今回の訪問で創立者の五代五兵衛氏と教えていただき、今更ながら銅像の横で写真（写真③）を撮らせていただきました。

また、コロナ禍でもあり教室にお邪魔できませんでしたが、廊下から子どもたちの元気な姿が垣間見られ嬉しく思いました。当時は薄暗い感じがありましたが、今は明るく温かい雰囲気の学校だと感じました。

みみネットの読者である、聴覚障がいのある子どもたちを担当されている先生方に向けて、メッセージをお願いします。

私立大阪盲唖院から始まった現在の大阪府立中央聴覚支援学校、名前は変われど開校以来現在に至るまで一人ひとりの子どもたちに合わせ（併せ）た教育を実践されてきました。先生方が創立者五代五兵衛氏の意志を繋ぎ、子供たち個々に合った教育を、生活面も含めて支援されてきたからこそだと思います。

昨今、いたるところに SDGｓという言葉が出てきますが、まさに１２０年以上実践してこられた学校です。ＡＩ技術など世の中は進歩すれど、子どもたちは今も昔も変わらずと思っています。時代に合わせることは必要ですが、元気に自分の個性を伸ばしつつ成長していくことが一番大切なことだと思っておりますので、これまで同様ご尽力戴けましたら幸いです。

福島彦次郎の孫ということで先生方へメッセージというのはおこがましいことと承知しておりますが、子供時代に聾学校に出入りしていた一人として、微力ながら皆様を応援させていただければと思っております。

＼福島さん、ご協力ありがとうございました！／

高校での学びについて ―本校卒業生より―

本校では、通級指導教室・支援学級相談の保護者学習会を、年に１回程度、行っています。今年度は「高等学校や大学での経験を通して」をテーマに、聴覚障がいのある大学生（本校卒業生）から、高等学校や大学生活についてお話していただきました。学習会後、あらためて高校での実際の様子などを伺うとともに、みみネットの読者に向けての原稿を寄せていただくことができました。ぜひ参考になさってください。

志望校を決めた理由について

中２のとき、将来飛び込む聞こえる人の中での生活を経験するためにはどうすれば良いか？と考え始めたときに、一般校に行けば良いと思いました。学校生活で困ったときに相談しやすい担任制度があり、勉強面でも（英語の発音をカタカナで表記してもらう等）家族に協力してもらえる高校から進もうと決め、そのときの成績で入れる高校を絞り込みました。それから、**授業体験、オープンキャンパス、文化祭に行き、成績だけでなく学校の雰囲気や先生、生徒の様子などを見て総合的に決めました。**

高校に入学するまでに準備したこと

合格者への説明会終了後、**ノートテイクや UD トークの使用許可、入学後、クラスメイトに対して障がいのことや声掛けの方法などを話す時間**を作ってもらえるようにお願いしました。あらかじめ伝えたいことを文章にして準備しておき、入学後クラスで先生に読み上げてもらう横で手話で自己紹介しました。

高校での配慮について（配慮場面と配慮方法など）

古典・英語・体育の授業には**同じ教科の先生が１人ノートテイク担当**としてついてくださいました。その他の授業は自分で持って行った iPad で UD トークを使うことになったので、学校の Wi-Fi を特別に使わせてもらいました。

高校との配慮内容の相談について（相談時期・場面配慮など）

まず、**受験前の 11 月のオープンスクールにて個別で相談**に行きました。合格後、具体的に**ノートテイクの協力依頼や、情報保障として宿題・連絡事項は必ず黒板に書くようにしてもらうこと、講演会等がある場合は文字情報での事前資料の準備など**のお願いをしました。

（実際には手話のできる先生がいたので、全体集会の時など手話通訳をしてくださいました。）

友だちとのコミュニケーション方法について

主に筆談が多かったです。２年生になってからは**手話を覚えたいという友だち**が出来たので、手話を使える人とは手話で話していました。最初に手話を覚えてくれた友達は、その後２年間ノートテイクが付かない授業での通訳をしてくれました。今現在は別大学ですが、手話サークルを立ち上げたり、一緒にろう児対象の NPO 法人でスタッフのボランティアをしています。

高校生活で困った場面

小さな不便（グループワークの時ついて行けない時があるなど）などはありましたが、大きく困った！と思うことはあまり無かったように思います。しいて言えば、調理実習は分からないことが多かったです。ただ、**クラスメイトが分かっていたのと、先生からのフォロー**もあったので協力して調理出来ました。

ご家族のサポートについて

病気で高１の２学期から卒業まで、車での送迎をお願いしていました。**高校生活の中では先生方、友だち共に協力、理解してもらえた**ので、改めて配慮のお願いや交渉することはありませんでした。大学を選ぶときには、オープンキャンパスに行く前から、大学への問い合わせや個別相談の申し込みの電話などを、母から大学の入試課にしてもらいました。

高校生活の一番の思い出

３年生のとき、友だちがとても増えたので行事を楽しむことが出来ました。その中でも特に文化祭が９月にあったのですが、酷い台風の影響で学校が停電してしばらく休校になり、文化祭のスケジュールも変更され、ハプニングあり、ドタバタありで大変でしたが、とても楽しい思い出になっています。

＼聴覚障がいのある中学生へのメッセージ／

これから先の人生で、障がいのあることにより、不便なことや理不尽なことは、たくさん起こると思います。それでも、自分が思っている以上に努力を認めてくれる人、自分の様子を見てくれている人がいます。自分の力を信じて、将来の夢ややりたいことに向けて頑張ってください。

高校生活では、「自分のことをわかってくれる人が必ずいる」という先生の言葉が支えになったとのことです。次号では、大学生活についての記事をお届けします！

チャレンジ！発音指導 ⑫

今号では、ウ音とエ音の発音指導について、ご紹介します。

ウ音

口のあけ方は、両唇のあいだに小指の先が軽くふれるぐらいです。舌先は、歯茎のうらにかるくふれるようにします。口を閉じるようにして、唇を少し丸めて声を出します。

ラッパを吹いて、誘導する方法や、自動車や消防車の真似をさせることによって、「ブーブー」「うーうー」などから誘導する方法があります。そのときには、母音部分を長く伸ばして誘導します。また、「アー、オー、ウー」と口形が順次小さくなるところを観察させて誘導することも有効だと言われています。

ウ音は、息が多いと、フ音になってしまうため、ウエとフエなどの出し分け、弁別をさせながら発音させていきます。

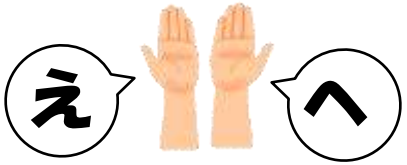
エ音

口のあけ方は、歯と歯のあいだに小指の先を挟んだくらいで、唇の両端を左右に引くようにあけます。舌先は下歯茎の裏につけて、前舌を下歯の裏につけるように出します。

あかちゃんのなき真似や「えいえいおー」のような掛け声から誘導することもあります。

エをへと誤る場合

息の出方を手のひらで感じながら、その違いを弁別させながら、誘導します。



エをアと誤る場合

アエイと口形と声の模倣をさせ、その口形及び舌の違いをよく観察させて練習します。また、アに誤る場合は、中舌の高め方が足りないことが多いため、ストローを中舌側面と上奥歯の内側で噛ませて、中舌の高め方を矯正する方法もあります。

「みみネット」編集部：
大阪府立中央聴覚支援学校　　聴覚支援センター　　担当：中咲、金森
〒540-0005　大阪市中央区上町１-19-31
TEL. 06-6761-1419　FAX. 06-6762-1800